

公開実用 昭和60—171868

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭60—171868

⑤ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和60年(1985)11月14日

B 65 D 83/14

6564—3E

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 吸気用缶詰製品の容器具

⑮ 実 願 昭59—61205

⑯ 出 願 昭59(1984)4月25日

⑰ 考 案 者 水 牧 勝 美 鎌ヶ谷市鎌ヶ谷704—3

⑱ 考 案 者 若 杉 信 行 野田市野田677—1 ローズハイツB—210

⑲ 出 願 人 株式会社 柏化学工業 東京都中央区日本橋小網町8番4号

明 細 書

1. 考案の名称

吸気用缶詰製品の容器具

2. 実用新案登録請求の範囲

作動ボタンを付した吸気用気体を発生また内蔵する缶と、作動ボタンを保護するキャップと、缶とキャップとを連結する管からなり、キャップの下部裾辺の一部がくびれ状の切込みがなされていることを特徴とする吸気用缶詰製品の容器具。

3. 考案の詳細な説明

本考案は吸気用気体を簡便に携帯し使用可能な様に工夫された吸気用缶詰製品の容器具に関するものである。

吸気用気体とは、麻酔用亜酸化窒素・エーテルおよび呼吸用酸素、また喘息・鎮咳剤はそのミストを含む担体ガス等が挙げられる。麻酔用は緊急的に使用が必要な場合があり、また酸素は酸欠状態また有毒ガスの充満した場所において使用されるものであり、また之を呼吸してアロマセラピー

的に気分爽快となる等の目的で使用されるものである。

これら目的には、正式に医療的に病院等の設備では、規格上高圧用ガスポンプを用いているが重量となるをまぬがれず緊急用また携帯用には簡易な容器具の望まれるところである。

本考案は、一般にエアゾール用耐圧缶また簡易ポンプ用耐圧缶を応用すれば普遍的であり従って安価に提供し得ることに着目した。耐圧缶にはバルブと称する作動弁が内蔵しておりボタンを押すか回転また押し倒すことによってバルブが作動し内容物が噴出する。前記の喘息剤では定量バルブを使用する。耐圧缶には吸気用気体を圧縮充填するか、吸着剤に吸蔵させて収納してあり、また液化ガスと共に薬剤を充填してある。また反応発生する方法として例えば過酸化物より酸素の発生する機構のものも考えられる。

耐圧缶に之等吸気用気体を充填した製品は従来より為されているところであるが、之を吸入用として噴出使用するときは大氣中に溢散し、利用率

が甚だ悪いので、本考案は効率よく吸気用気体を摂取し得る様工夫したものである。

即ち、前記の簡易な耐圧缶においては、そのボタンを保護するためのキャップを付すことが定められているが、本考案ではそのキャップを利用して口・鼻に宛合う様な形状で切込みを入れたものを用い、前記ボタンの噴口とキャップとを細管で連結することを特徴とするものである。

以下、実施例として図面によって説明する。

第1図は、本考案の構成を示す外観図で、Aはキャップが缶にセットされた状態、Bはキャップを取はずした状態を示し、Iは吸気用気体が収納されている缶、IIはキャップ、IIIは導結管である。ボタンIを押すことによって、Iに内蔵するバルブが開き吸気用気体は噴口aより溢出する。気体はaとキャップの連結口bと連結する導結管IIIによって導かれ、キャップ内部に放出されることになる。キャップIIには切込み2が入っており、顔面に宛合ったとき鼻柱の当りを避け頬・口周部に密着し易いための考慮がなされている。エアゾー

ル耐圧缶に之等気体を圧入する工夫は従来為されていたが、之を吸入用として噴出するときは空気中に溢散し、甚だ効率が悪いところ、本考案は効率よく吸気用気体を摂取し得る様に工夫したものである。

一般にエアゾールにおいては、そのボタンを保護するためのキャップを付すことが定められており、本考案ではそのキャップを利用して口・鼻に宛合う様に切込みを入れ、前記バルブとボタン噴口とを細管で連結することが、本考案の特徴である。

~~以下、図面によって説明する。~~

~~第1図は、本考案全体の構成を示す外觀よりみた図面で、Iは吸気用気体が収納されている缶、IIはキャップであり、A図はキャップが缶にヒットされた状態、B図はキャップを取はずした状態を示す外觀図である。ボタンIを押すことによりこれに連Iに内蔵するバルブが開き吸気用気体は噴口aより溢出する。気体はIとIIに連結する細管IIIによって導かれキャップの一端の連結口b~~

~~から内部へ放出することになる。キャップには切込み2が入れられており、顔面に宛合ったとき鼻柱を避け頬・口周部に密着し易すための考慮がなされている。~~



第2図は、本考案の別案のキャップを示す図面であり、C図はその横面から、B面は横正面から見た図面である。この場合の連結口bは円周部に開口しており、切込み2の上部に付してある。それは第2図は、本考案の別案のキャップⅡを示す図面であり、Cはその横正面から、Dは横側面から見たものであり、この場合連結口bは円周部の切込み2の上部に付してある。それはキャップをプラスチック成型する際金型取りのための考慮で、取付部品Ⅳを別に作成し、キャップに¹嵌め込む様に工夫され、軟質材3は鼻柱・口周部とのあたりを和らげ密着性をよくするために取付けることもある。

第2'図取付部品Ⅳを上面E、側面F、正面Gから見た図面でcの切込によってキャップにはめ込みbによって導結管Ⅲと連結する。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示すもので、第1図は本考案の概要を説明するための外観図、第2図は本考案のキャップ部を示す側面図、第2¹図はキャップの取付部品を示す上、側、正面図である。

Ⅰ：缶、Ⅱ：キャップ、Ⅲ：導結管、a：噴口、b：連結口、1：ボタン、2：切込み、3：軟質材。

出願人

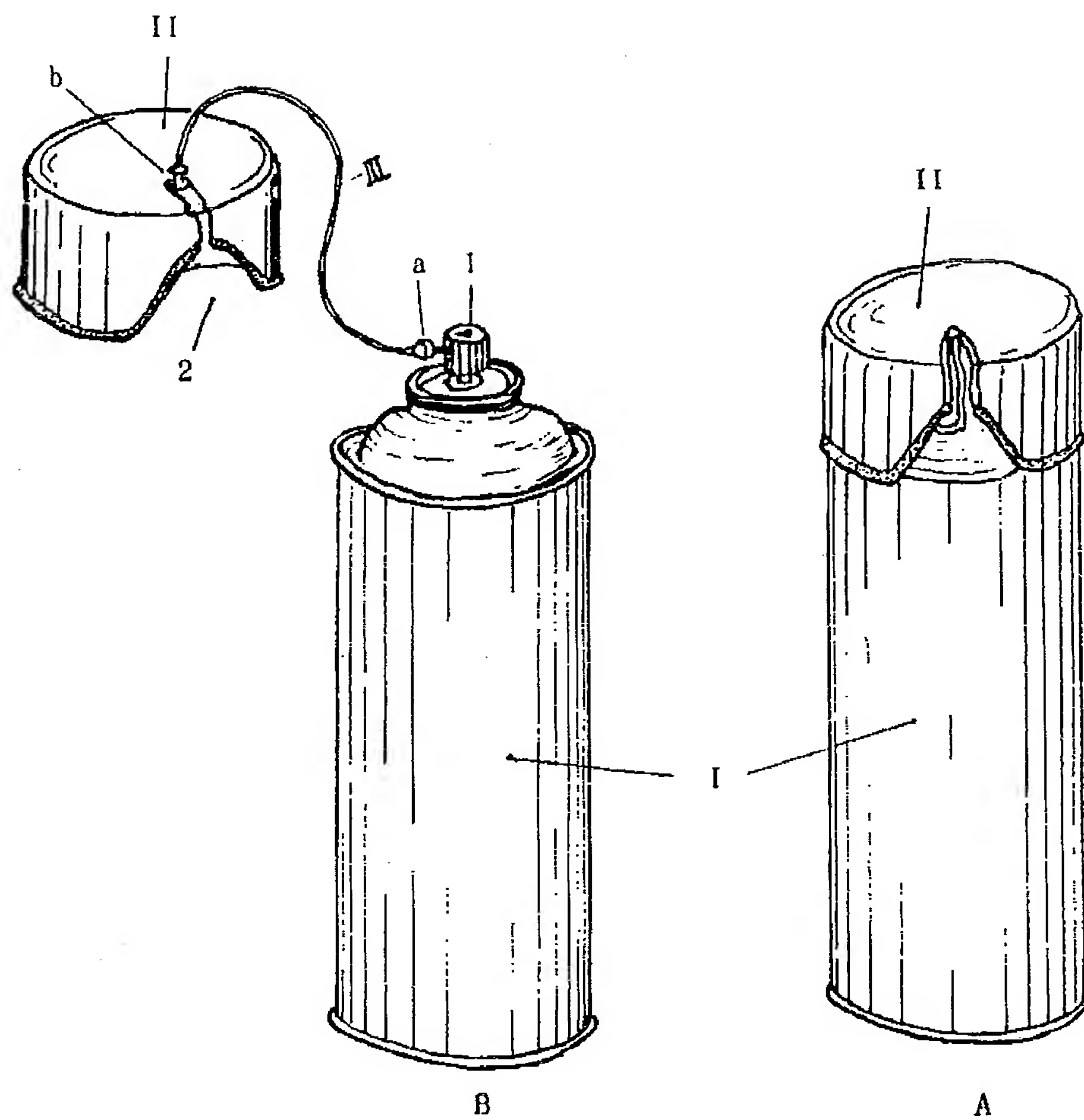
株式会社

柏化学研~~究所~~

工業

3字削
2字加

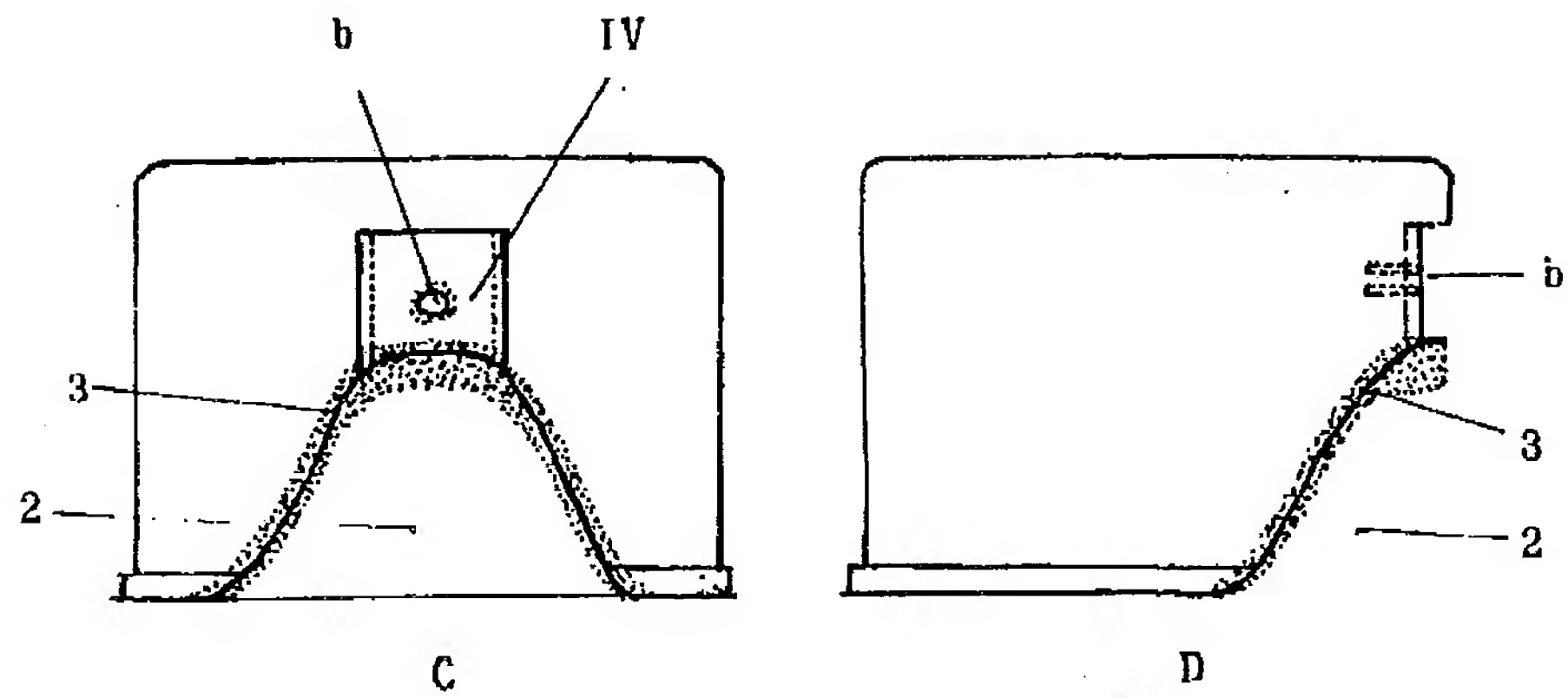




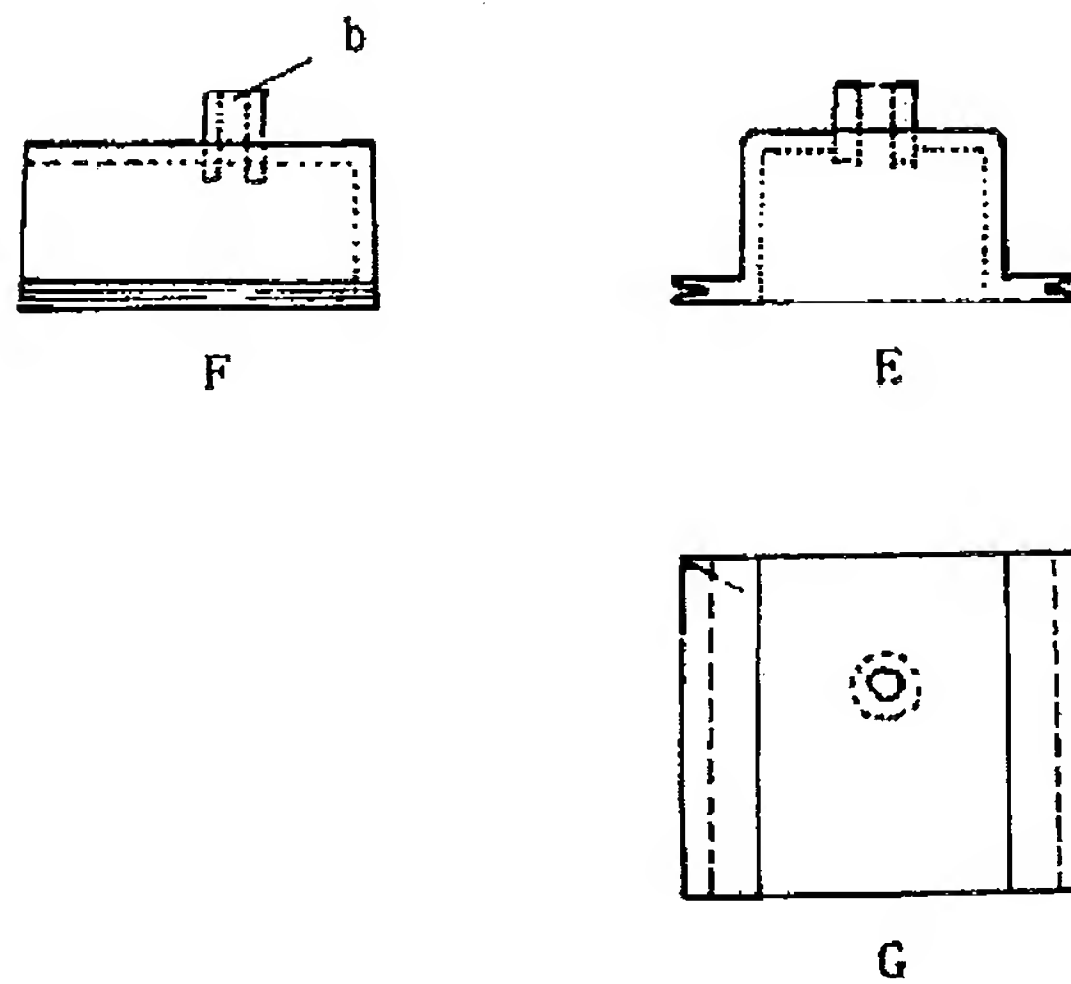
第 1 图

728
~~78~~

191305



第2図



第3図

實用新案出願人 株式会社柏化学工業



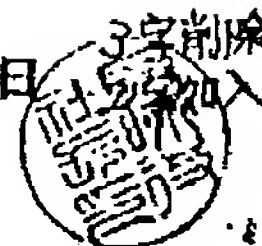
公開実用 昭和60—171868

手続補正書（方式）

昭和59年 8月 8日

特許庁長官

殿



1. 事件の表示

昭和59年実用新案登録願第61205号

2. 考案の名称

吸気用缶詰製品の容器具

3. 補正をする者

事件との関係

実用新案登録出願人

住所 ㊦ 103 東京都中央区日本橋小網町8番4号

氏名

株式会社 柏化学工業

代表者 相澤哲郎



4. 補正命令の日付

昭和59年 7月 4日

(発送日 昭和59年 7月24日)

5. 補正の対象

(1) 明細書中 (イ) 考案の詳細な説明の欄

(ロ) 図面の簡単な説明の欄

(2) 図面

6. 補正の内容

別紙の通り



昭和60-171868

730

方式
審査



- (1) 第 5 頁中、下から第 3 行「第 2' 図以下を削除し、通り訂正する。

記

第 2 図中、E、F、G は取付部品 IV を各々上面側面、正面からみたもので、C の切込によってキャップにはめ込み、b によって導結管と連絡する。

- (2) 第 6 頁中、第 1 ～ 8 行「4. 図面の簡単な説明」は全文次の通り訂正する。

記

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示すものである。

第 1 図は本考案の概要を説明するための外観図であって

A はキャップを取りはずしたときの外観図

B はキャップをセットしたときの外観図である。

I : 吸気用気体が収納されている缶

II : キャップ

III : 導結管

a : 噴 口 , b : 連結口

1 : ボタン , 2 : キャップの切込み

第2図は本考案のキャップ部を示す図面である。

C は キャップの正面図

D は キャップの側面図

E は 取付部品の上面図

F は 取付部品の側面図

G は 取付部品の正面図である。

IV : 取付部品

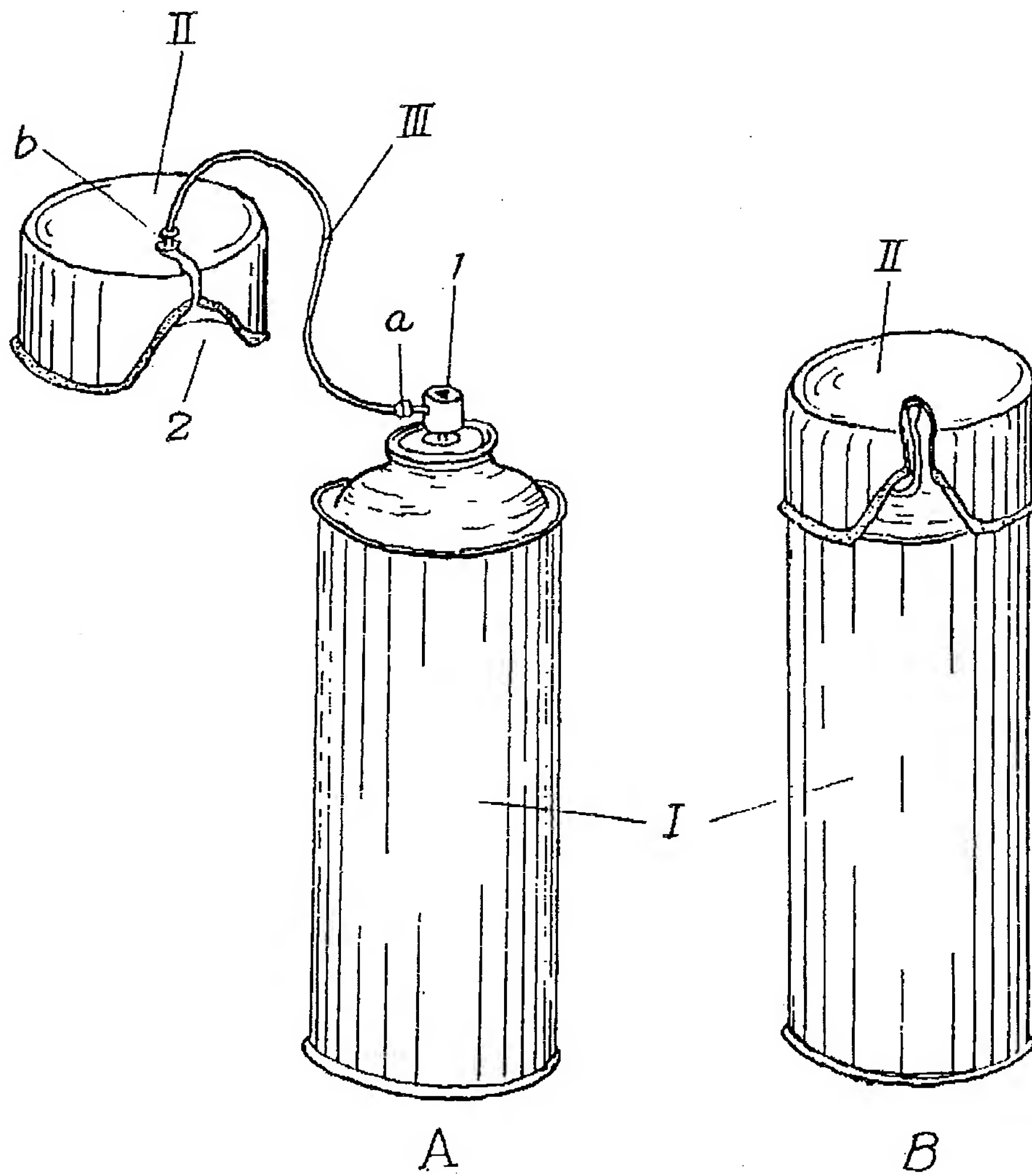
C : 取付部品の切込み

2 : キャップの切込み , 3 : 軟質材

[3] 添付書類 (2) 図面は 別紙の通り訂正差替える。

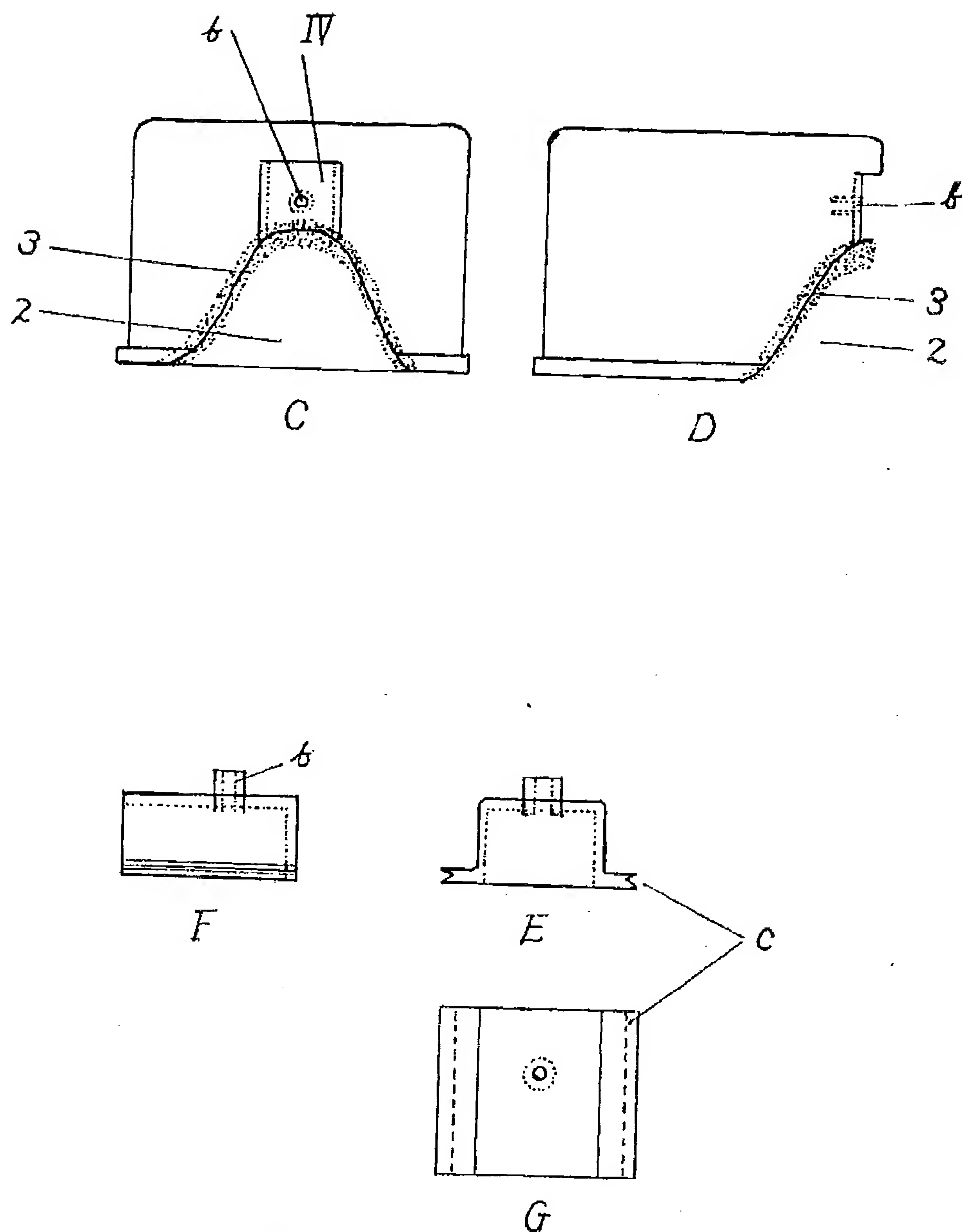
以 上





第 1 圖

733
 5778A 20
 實開 60-171868



第 2 図

実用新案出願人 株式会社 柏化学工業